

条幅部自由参考

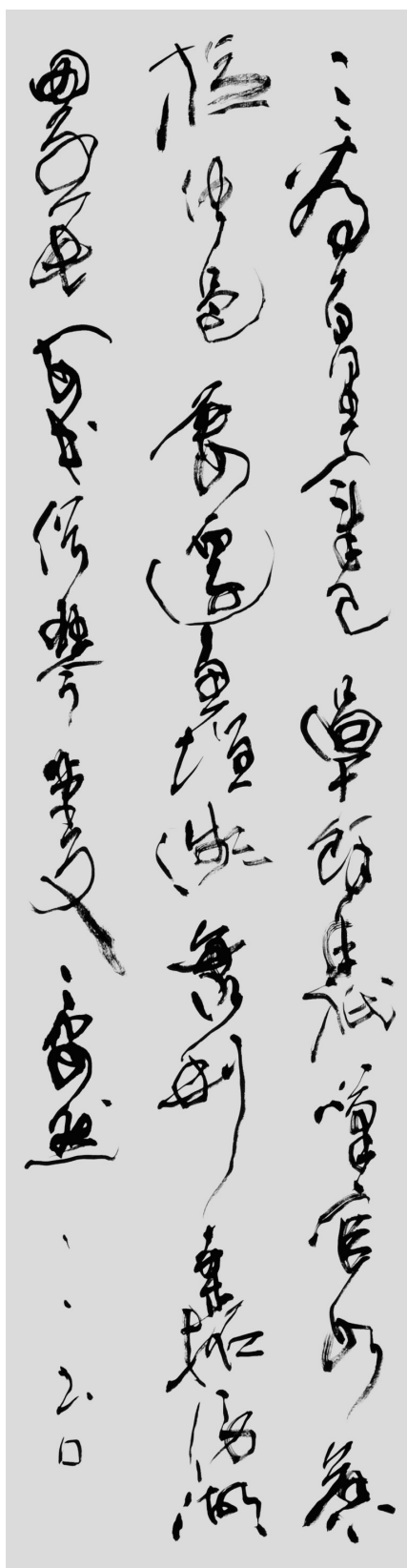
6月25日正午必着

明石春浦先生書

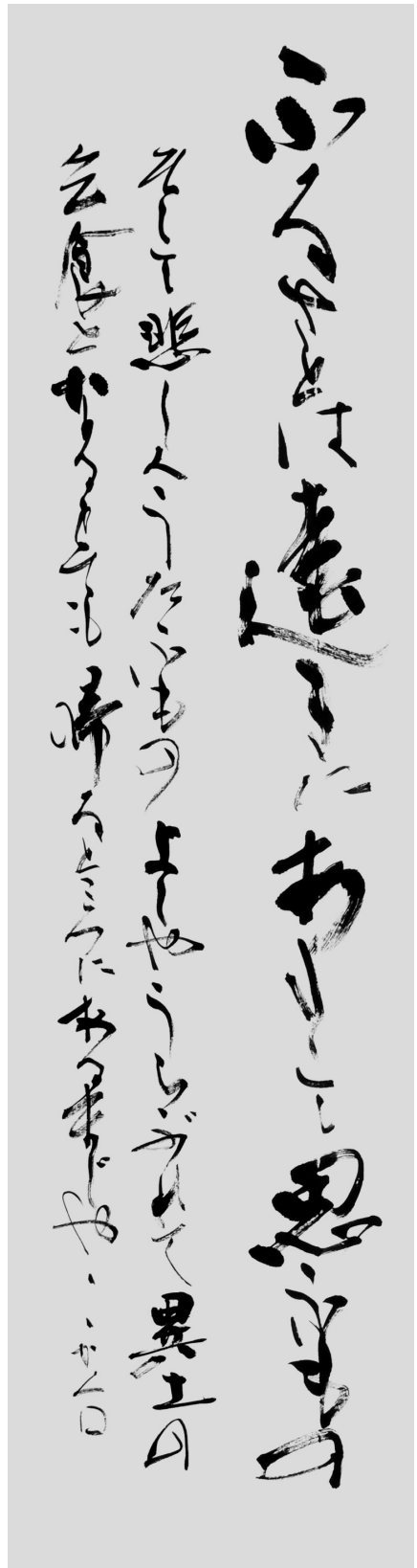


時和筆物  
ときやわらきふてのぶ  
時和筆暢(王璣) これは書のことであろう。

明石幸子書



みたびひくりのさいとなり  
三爲百里宰  
ぎょえんうみにひんずるのり  
魚鹽濱海利  
すでにじゅうねんをすく  
已過二十餘年  
そうしやみずみにそつた  
桑柘傍湖田  
ただたんすかんのきゅうのごときを  
祇嘆官如舊  
ここにいたってみんぞくをやすんじ  
到此安民俗  
かえってきくゆつのはしはうつるを  
旋聞邑屢遷  
きんどうまたあんぜんたらん  
琴堂又晏然  
(韋応物)



ふるさととは遠きにありて思ふもの そして悲しくうたふもの よしや うらぶれて異土の乞食となるとも 帰るところにあるまじや  
(室生犀星『小景異情』)

## 条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

古寺無<sub>レ</sub>人竹滿<sub>レ</sub>軒 (蘇 軾)

古寺人無<sub>ク</sub>竹軒に滿<sub>チ</sub>

古い寺には人もおらず竹が軒に満ちている。

江雲帶<sub>レ</sub>雨涼生<sub>レ</sub>竹 (高 翥)  
野水迎<sub>レ</sub>潮暗入<sub>レ</sub>籬

江雲雨を帶<sub>ビテ</sub>涼竹に生<sub>ジ</sub>  
野水潮を迎<sub>エテ</sub>暗に籬に入る

江村に於ける夏の光景。

僧舍小池 (張 鼎)

僧舎の小池 張 鼎

引<sub>二</sub>出白雲根<sub>一</sub> 潺潺漲<sub>二</sub>蘚痕<sub>一</sub>  
冷光搖<sub>二</sub>砌錫<sub>一</sub> 疎影露<sub>二</sub>枝猿<sub>一</sub>  
淨帶<sub>二</sub>凋<sub>レ</sub>霜葉<sub>一</sub> 香通<sub>二</sub>洗<sub>レ</sub>藥源<sub>一</sub>  
貝多文字古 宜<sub>下</sub>向<sub>二</sub>此中<sub>一</sub>翻<sub>上</sub>

白雲の根より引き出で 潺潺として 蘚痕に漲る  
冷光 砌錫に揺れ 疎影 枝猿を露わす  
浄きは霜に凋む葉を帯び 香ぐわしきは藥を洗う源に通ず  
貝多の文字古りたり 宜しく此の中に向いて翻すべし

6月25日正午必着

馬鈴薯のうす紫の花に降る雨を思へり 都の雨に (石川 啄木)

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

開 秘  
井 石  
新

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

梵石新  
開井

隸書

雙石新  
開井

明石春浦先生書

草書

荒不刺  
井井

行草書

雙石新  
開井

ただひとり双峰に対して過す中に年老い 松木立の中の門は両側よりせまる崖をびったりと閉ざす  
經典を翻訳して芭蕉の葉に書きしるし 袈裟を掛けておくところに藤の花が散りかかる  
石畳を敷いて、新たに井戸を開き 林を切り拓いて毎日茶を植えておられる  
時折り海の南より訪れる客に逢い 南蛮のことばで誰方かなどとたずねている

贈「山中日南僧」 張籍

獨向「雙峯」老

松門閉「兩涯」

翻經上「蕉葉」

掛衲落「藤花」

磴石新「開井」

穿林日「種茶」

時逢「海南客」

蠻語問「誰家」

山中日南の僧に贈る

張籍

独り双峰に向かつて老ゆ

松門 両涯を閉ず

経を翻して蕉葉に上せ

衲を掛けて藤花を落す

石を磴みて新たに井を開き

林を穿ちて日に茶を種う

時に海南の客に逢い

蛮語して 誰が家かを問う

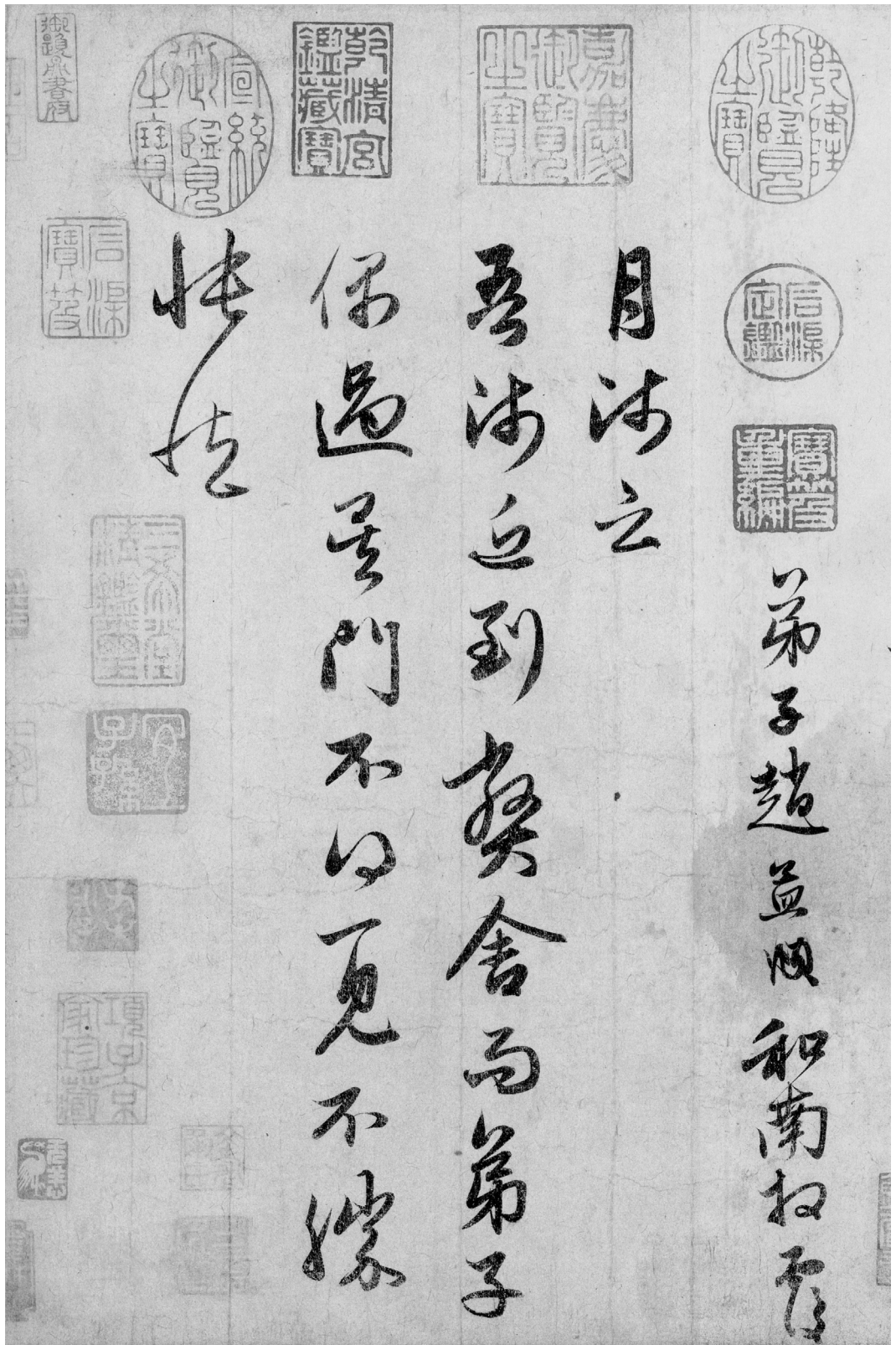
(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より



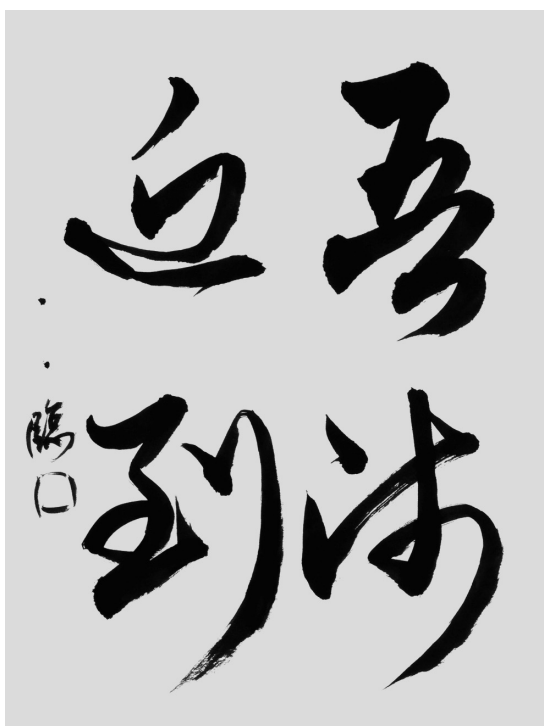
6月25日正午必着



月師云。吾師近到弊舍。而弟子偶過其門。不得一見。不勝悵然。  
 月師云く、吾師近く弊舎に到る、而して弟子偶たま其門を過ぐ、一見し得ざれば、悵然たるに勝えず。



吾師近く弊舎に到る、而して弟子偶たま呉門を過ぐ、一見し得ざれば、



吾師近く(弊舎に) 到る

元趙孟頫・尺牘(致中峰明本)

趙孟頫は、南宋の宝祐二年(一二五四)に生まれ、元の至治二年(一三二二)に没した。宋王朝の後裔でありながら、宋王朝を滅ぼした元の世祖皇帝フビライに招かれ元王朝に仕えた。このことは一族から批判を受け、後世の評判も芳しくないところもあるようであるが、政治家であり、元時代を代表する文人と称されている。字は子昂、号は松雪、鷗波。呉興(浙江省湖州市)の出身。

書人としての趙孟頫は、晋唐の古法を重んじ、復古主義を標榜し、王羲之を目ざし、更にそれを発展させようとしたといわれている。それは彼が皇族の出身で、貴族的な王羲之の書風は、伝統的に宋の宮廷で重用されていたこと、人格が円満で温和な教養人であったことに由来しているとされている。

趙孟頫の書風は筆法妍媚、結体淳古、すなわち端正で美しい書、風格高く、流麗さを備えているといわれている。

この書は元代一級の高僧・中峰明本に与えた尺牘十一通。優雅で温和な雰囲気を感じたい。

(春濤)

6月25日正午必着

教育部毛筆

栽培

雨宮春聲先生書

さい  
栽

ばい  
培

中学一年

殿堂

菅井松雲先生書

でん  
殿

どう  
堂

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



でん  
田

えん  
園

小学五年

榎戸春龍先生書



うん  
運

が  
河

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



6月25日正午必着

糸車

藤田幸春先生書

いと  
糸

ぐるま  
車

小学三年

流水

細谷春誠先生書

りゅう  
流

すい  
水

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

か

さ

小学一年・幼年



森戸春濤書

火

山

小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

黒い雲が流れてはげ  
しい夕だちとなった

小学五年

降り続いた雨がやん  
で夏の空に変わった

小学六年

山の花も水に戯れる鳥  
もみなよき友である

中学

湖面に波紋の跡を残し  
ながら夕立ち雲が通る

一般(級位)

ほととぎす鳴かきつてさるる聲  
はたぬ寝ざめの人や聞くらむ

一般(段位)

ほととぎす 暁かけて鳴く聲を待たぬ寝ざめの人や聞くらむ (藤原伊家)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

|   |   |
|---|---|
| ま | る |
| で | 絵 |
| の | よ |
| う | に |
| 美 |   |

|   |   |
|---|---|
| し | い |
| ラ | ベ |
| ン | ダ |
| ー | 畑 |
| だ |   |

小学四年

|   |   |
|---|---|
| 雲 | 空 |
| に | は |
| お |   |
| お | は |
| わ | い |
| れ | 色 |
| た | の |

小学三年

|   |   |
|---|---|
| さ | つ |
| わ | ゆ |
| や | 明 |
| か | け |
| で | の |
| す | 空 |
|   | が |

小学二年

|   |   |
|---|---|
| そ | 七 |
| ら | い |
| に | ろ |
| か | の |
| か | に |
|   | じ |
| た | が |

小学一年

|   |   |
|---|---|
| さ | き |
| し | い |
| ま | ろ |
| し | の |
| た | か |
|   | さ |
|   | を |

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ゆふぐれは  
いづれの雲の  
なごりとて  
花たちばなに  
かぜのふくらむ

ゆふぐれは  
いづれの雲の  
なごりとて  
花たちばなに  
かぜのふくらむ



松永翠舟先生書

ゆふぐれは  
いづれの雲の  
なごりとて  
花たちばなに  
かぜのふくらむ  
(藤原定家)